

多面的・多角的な視点で、自分事として道徳的価値の理解を深める生徒の育成 ～生徒同士のインタビューを中心とした学習活動を通して～

特別研修員 道徳 宮崎 瞳（中学校教諭）

生徒の実態

- ・自分の生活と教材を結び付けて考えることに課題が見られる。
- ・発言が表面的な言葉や雰囲気で行ってしまい、友達との対話がすぐに途絶えてしまうため、考えの深まりに課題が見られる。

教師の願い

- ・自己と向き合い、自分との関わりで道徳的価値を捉えてほしい。
- ・生徒が教材について自分事として考え、多様な視点から語り合うことで、道徳的価値を深められるようにしてほしい。

主題名 垣根をこえて 内容項目Cー（18）国際理解・国際貢献 教材名「六千人の命のビザ」（出典：「新しい道徳2年 東京書籍」）

導入 手立て1 生徒自身が見通しをもち、自分事として考える導入の工夫

- ① アンケート結果やワードクラウドを活用し、個の思いや考えを全体で共有する

- ② つぶやきを基に「めあて」を設定する

今日はどのようなことを考えていきたいですか？

- ③ 本時のめあてに対する今の自分の考えを書く

めあてに対する今の自分の考え

。世界のニュースなどに目を向ける。

めあて

世界の人々が平和に暮らすために、どのような心や考えをもつことが大切だろうか。

展開 手立て2 多面的・多角的な視点で考えを深めるためのインタビュー活動の設定

- ① 登場人物や関係性、それぞれが置かれた状況を捉える

- ③ ねらいを視点にし、登場人物役の友達にインタビューを行う

「決断」という視点で、主人公に、インタビューしたいことはありますか？

- ② 範読を聞き、インタビューに向けて「問い」を考える

なぜ千歳さんは六千人の命を守る決断をしたのかな。

ナチスドイツによって自分も命の危険にさらされるかもしれない中で、なぜビザを発行したのですか。

覚悟の上で、自分の命よりも多くの命を優先したいと思った。

- ④ 問い返しや補助発問による対話を通して考えを深める

今の千歳さんの考えを聞いて、どう思いましたか？

自分だったらその覚悟はもてず国に帰ってしまうと思う。

助けたい気持ちが大きい。

命を救うためなら、ルールを破ってもいいのですか？

国のルールを破ることはよくないけれど、相手の命を守るためなら仕方ないと思う。自分がユダヤ人の立場だったら、理不尽だなと思う。

終末に向けて 手立て3 インタビュー活動を踏まえ、自由に語り合える場の設定

導入時の考えと比較し学びを振り返る

1人1人が責任をもって「この国の人々を助けたい」「この国に貢献したい」という覚悟を持って行動することが大切だと思いました。ちゃんとこの他にも他の国への意識を向けて発信していくことが大切だと思いました。私も改めて自分たちが「平和な暮らしをするためには、他の国に手をさしやる」ことが大切だと思いました。ユニセフ募金などの活動も積極的にとりくもうと思いました。

今の自分はどのような考えですか？

世界全体で一人一人の命を尊重し、相手を大切にしようとする考えをもつことが大切だ。

ユダヤ人のために命を張るのはすごい。自分が逆の立場だったらどうなのかと考えることが大切だ。

目指す生徒像 多面的・多角的な視点で、自分事として道徳的価値の理解を深める生徒

成果

○ アンケート結果やワードクラウドを活用し、自分たちの実態を把握したことにより、自分たちで設定しためあてを意識した話合いや振り返りにつながり、自分事として考えている姿が見られた。

○ インタビュー活動を通して、自分たちで考えた「問い」を基に、「××の立場だったら…」と多面的・多角的な視点で教材と向き合い、考えている姿が見られた。

課題

● ペアやグループの対話から道徳的価値に迫るため、教師が対話の内容を聞き取り、生徒の考えを広げたり、つなげたりしていくことが重要である。

● インタビュー活動を小グループで行うなど、生徒の実態に合わせてより効果的な学習形態の工夫を考えていく必要がある。